



外からの刺激で対馬を活性化させようと、平成23年4月に設置された「対馬市島おこし協働隊」。都市出身の熱意ある若者5名が協働隊員として移住し、対馬のために奮闘しています。今月号からシリーズで隊員の活動をお知らせします。今回は、昨年度の活動を報告します。

### 生物多様性保全担当（木村幹子隊員）

ヤマネコをはじめとする対馬の豊かな動植物を守るために、産業振興や雇用創出に結びつくような施策の企画立案を行っています。昨年度は、志多留地区をモデルとした自然共生・資源循環型の持続可能な集落づくり、佐護ヤマネコ稲作研究会等の活動サポート、海洋保護区設置に向けた推進支援等に取り組みました。



志多留地区での住民ヒアリング調査

### 島デザイナー（松野由起子・村田真耶隊員）

市民にとっては見なれた対馬の資源を、デザイナーの優れた美的感覚・観察力で捉え直すことで、対馬の魅力向上に努めています。昨年度は、特産品のパッケージ、パンフレット、観光マップのデザイン等に取り組みました。村田隊員は留学経験を活かし、英語圏に向けて対馬の情報を発信しています。

### 薬草で島おこし担当（須澤佳子隊員）

産業振興と観光客の満足度向上のために、対馬の植物資源を使った商品開発と、対馬ブランド構築を進めています。昨年度は、売れそうな資源のリストづくり、商品化の実証実験、インターネットやイベントを活用した対馬のファンづくりに取り組みました。



アイランダー（東京）にて対馬ファンを拡大

### レザークラフトで島おこし担当（山下遼隊員）

市民を困らせているイノシシやシカの革で製品を生み出し、「有害鳥獣」を「資源」に変えられるよう、皮革の特産品化を進めています。昨年度は、狩猟者の皆さんから調達した皮で、バックや名刺入れ、ストラップ等を試作し、イベントでPRしました。

Q どのようなことを協働隊にお願いできるの？

A 協働隊には商品開発やデザインに関する専門知識を持った隊員が所属しています。新たに対馬の特産品を開発したい、特産品の販売促進に悩んでいる、パッケージやラベルのデザインをよくしたい等、地域の資源を活かした産業振興・担い手育成・環境保全につながるご要望であれば積極的にお手伝いいたします。お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ 対馬市島おこし協働隊事務局(地域再生推進本部内) 0920(53)6111